

経済透視図

105

2024年3月27日掲載

投資が活発化している。大型の資金調達を行う「植物工場」が転機など、注目されるスタートアップの華々しいを迎えている。海外では2021年から22年にかけて、米Appharvestと同Kieraが特別買収目的会社(SPAC)を活用したナスダック(NASDAQ)上場を果たし、同Aerofarmsも同様の計画を発表した。未上場企業でも独Infarmが

植物工場

でも従来の農業を一変、長性、収益性は実現でさせる革新的な生産手段として期待が大きく高まったが、結果的にコロナ禍以前から植物工場が注目されてきた背景

景の一つには、長期的である。
・世界的な食料不足への懸念がある。食料供給を増やすための手段として、フードテック分野ではゲノム編集や代替たんばく質なども関心を集めるが、これ

る点特徴だ。一般的に植物工場は工場のフロアに多段式の水耕栽培棚が並びイメージが想起されるが、同じフロア内でも場所によって気温が数度違うなど栽培環境にばらつきがあった。

普及へ生産性向上必要

SMB C日興証券
プライベート・
キャピタル・
ソリューション室

山岡弘明

まで消費者が食べてき菜よりも高単価な果実たものと同じものを生産する植物工場は、消費者の安心感や受容性という点で優れており、今後も技術革新や普及が期待される分野

無断転載・複写禁止